

第 24 回杉診サロン報告書

8月3日（金）の杉診サロンでは、当診断士会の会員である山内喜彦氏から「5Sは企業革新の基礎づくり」のテーマで講演していただきました。骨子は、以下のとおりでした。

企業を取り巻く事業環境はめまぐるしく変化しており、その変化に合わせて自らを革新していく必要があります。企業の事業活動を支えるのはお客様であり、お客様満足をいかに向上するかが重要な活動となります。

5Sはお客様満足度を上げるための意識改革の活動であり、製造現場のみならず、販売、設計、管理などを含む企業全体の改革を進めていく基礎といえます。

1. 5Sとは、整理、整頓、清掃、清潔、躰のことをいいます。

①整理	要るモノと要らないモノに区分し、要らないモノを処分すること。
②整頓	要るモノを所定の場所にきちんと片づけ、いつでも使えるようにすること。
③清掃	身の回りや職場をゴミ・汚れのない状態にすること。
④清潔	いつ誰がみても、誰が使っても不快感を与えぬようきれいに保つこと。
⑤躰	職場のルールや規律を守り、実行する習慣を身につけること。

2. 5Sの目的は、ムダ取りによる利益の向上（儲け）に貢献することです。

5Sのプロセス活動を展開→ムダを省く→失われていた利益を取り戻すことです

生産現場と事務部門のムダ

生産現場のムダ	事務部門のムダ
作りすぎのムダ	進みすぎのムダ
在庫のムダ	仕事・資料の溜め込みのムダ
運搬のムダ	運搬・歩行のムダ
不良のムダ	間違いのムダ
加工のムダ	作業のムダ
動作、手持ち、管理のムダ	動作、手持ち、管理のムダ

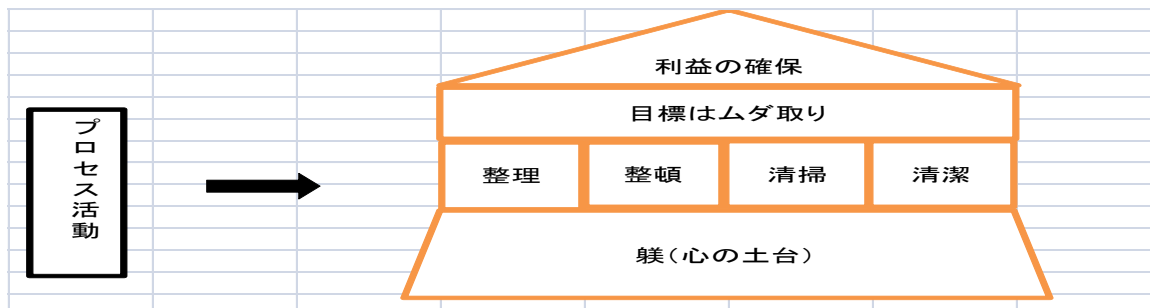
3. 5S実践のポイント、5Sの要とは

(1) 管理のサイクルを廻すことが必要です

(2) 3現・3即・3徹を実施します

3現	<u>現場</u> へ行き、どのような問題があるか、その <u>現実</u> を知り、その <u>現物</u> に手をつけて解決策を見出します。→更に進んで、5ゲン主義（原理・原則）へ
3即	問題を現場でとらえた <u>その時</u> （即時）、 <u>その場</u> （即座）で、 <u>すぐ</u> に対応（即応）する。現場での問題は時の経過で変わるため、3即が必要です。
3徹	実際に活動を始めたら、当初立てた方針を <u>最初から</u> （徹頭）、 <u>最後まで</u> （徹尾）、 <u>こだわり続ける</u> （徹底）ことが大切です。

(3) 5Sの要は「躰」であり、「人づくり・心づくり」をすることが重要です。



4. 5Sをおこなうとなぜ儲かるのか

①整理整頓ができれば、“モノ”を探す時間が少なくなります。 <u>(時間効率のアップ)</u>
②整理整頓が進むと、スペースに余裕が生まれます。 <u>(場所の効率アップ)</u>
③修理部品や資材管理がきちんとできるようになり、必要なものを必要以上にもたないため、かなりのコストメリットが生まれます。 <u>(費用の削減)</u>
④整理整頓が進むにつれ、現場での段取り改善が進むようになり、設備の稼働率が向上し、労働時間の質が向上します。 <u>(生産性のアップ)</u>
⑤清掃も同様。清掃が常に行き届くと、品質トラブルが減少し、設備の故障停止の頻度も減ってきます。 <u>(ロスコストの減少)</u>

5. 5Sの効用として、別の5Sが発生します

<u>Sales</u> (販売力の強化)	きれいな工場や事務所はそれだけで売物になります。 工場・職場見学が増え、注文を出す業者が増加します。
<u>Saving</u> (節約)	工具や消耗品、時間の節約等コストダウンができます。
<u>Safety</u> (安全)	広く、明るい、見通しの良い職場づくりや機械の点検、 服装や保護具による職場の安全確保ができます。
<u>Standardization</u> (標準化)	職場全員が決めたことを正しく実行することで、品質・コストは安定し、不良率0%を目指せます。
<u>Satisfaction</u> (生き生きした職場づくり)	トラブルのない、風通しの良い、明るくて皆でやれば、 何でもできる生き生きとした職場づくりが可能です。

6. もうひとつの5Sとまとめ

S a l t (塩)、S n a c k s (スナック)、S i t t i n g (座りっぱなし)、S m o k i n g (タバコ)、S u g a r (砂糖) の5Sがあり、生活習慣病にならないために追放すべき5S。(花巻労働基準局の署長さんが提案)

自分自身の5Sと会社における5Sにより、健康な体と健全な会社をつくり、公私共に明るい未来を切り拓きましょう。